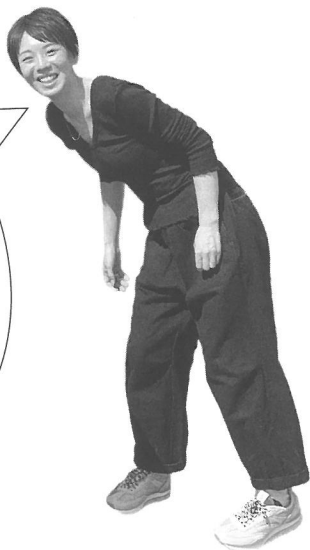


学びがいっぱい 学習講座

大会2日目は4つの学習講座があります。

- ①教育実践と発達保障—子どもたちから学んだこと—
塚田直也さん（『みんなのねがい』編集長）
 - ②子どもの思いを出発点に—ASDや発達障害のある子どもの理解と支援—
富井奈菜実さん（奈良教育大学）
 - ③私に人生と言えるものがあるなら—障害の重い人たちと働くことの魅力—
原田文孝さん（『みんなのねがい』連載者）
 - ④笑顔を育てる子育て—「かわいそう」を「面白そう」に—
山口 歩さん（奈良県在住 二人のASD児の母親）
- そのうちお二人の方からメッセージをいただきました。

富井奈菜実と言います。普段は全国大会の2日目の会場となる奈良教育大学に勤めています。最近は学童期の発達を研究のテーマとしています。学習講座では、「子どもの思い」を軸にASDや発達障害のある子どもの理解や支援についてお話しします。「子どもの思いを大切にしたい」と願うみなさんと、その思いを共有できる機会にできればと思っています。



山口 歩さん ご家族4人で

2018年に「NHK障害福祉賞」の最優秀賞を受賞。
2011年より、奈良教育大学にて「あいのある世界展」を開催。アートを通じての理解を広げる活動も行なっています。

いざ、記念講演。

微力かもしれないが、無力ではない

—子どもたち、
障害のある人たちと家族から
教えてもらったこと—



池添 素さん

障害のある子どものことをもっとわかりたいと全障研と出会いました。振り返ると53年の月日がたちました。障害児入所施設で働き始めてすぐに全障研5回大会（1971年）が京都で開催されました。そこから働く場所がかわっても、いつも全障研とつながっていました。その中で、子どもたちや保護者から教えてもらったことを伝えたいと、この大役を引き受けました。

その1は、子どもは「育てる」のではなく「育つ」存在だということ。それは障害の有無にかかわらず、子どもたちは自分で育つ力をもっています。「育てなきゃ」と思いがちですが、私たちの仕事は『育つ力』を豊かに育むことです。そのために私たちができることを一緒に考えましょう。

その2は、保護者から学ぶ視点です。「親」をするだけでも大変なのに、障害や育てにくさのあるわが子とつきあうのは想像以上にむずかしいことがあります。

ます。それでもがんばっているママやパパのことをわかりたいと思いました。そのためには、話を聞かせてもらうことにつきます。暮らしのこと、子育てのこと、仕事のこと、パートナーのこと。聞くことを通して学ぶことばかりでした。

その3は、働くことと学ぶことの意味です。なんのために働くのかはいつも頭にあります。子どものねがいがわからず、自分の無力さに出会ってききました。そんな時に発達を学び、かわりを工夫することで見えてきたことがたくさんあります。

私自身の人生も、波乱万丈で、子育てに悩み、中途障害者となった相手の介護も経験しました。相方が一人で始めた『無言宣伝』は、亡くなった今も続いています。私が確信をもって言えることは『子育ても人生もいつからでもやり直せる』ということ。奈良での2日間、一緒に、会って、話して、考えあいましよう。

2人のASD（自閉スペクトラム症）児を育てている母親です。
息子たちが自閉症だと診断され、これまでも無我夢中で家族で奮闘してきた、しんどくても楽しかった日々を「ノンフィクション」でお話しさせていただきます。
私たちの子育ては「かわいそう」じゃなく、とっても「面白そう」なんです。